

都道府県・指定都市番号	24	都道府県・指定都市名	三重県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	家庭（共通教科）
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究				
学校名（生徒数）	三重県立あけぼの学園高等学校（232人）				
所在地（電話番号）	三重県伊賀市川東 412 （0595-45-3050）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.mie-c.ed.jp/hakebo/				
研究のキーワード	パフォーマンス課題，ワークシート，リフレクションシート，ループリック，観点別評価				
研究結果のポイント	<p>① ワークシート・リフレクションシートの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が興味・関心を持って取り組むことのできるワークシートの作成をすることができた。 ○ 1回の授業（90分）で学習した内容の小テストと自己評価表を記入させるリフレクションシートに取り組むことで，授業の理解度や取組具合を生徒だけでなく教員も把握し振り返ることができた。 <p>② 生徒が主体的に取り組めるパフォーマンス課題の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「契約」に関する「パフォーマンス課題」に生徒が主体的に取り組むことができた。 ○ 生徒の表現方法の一つとして動画を活用する取組は，生徒が興味・関心のある分野であるため意欲的に取り組むことができ，生徒の「できる喜び」や「学びのつながり・深まり」の実感につなげることができた。 <p>③ ループリックの考案と効果的に活用する方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシート毎のループリックを作成することで，毎時間の生徒の学習状況を把握することができた。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「家庭基礎」における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた課題設定の工夫～パフォーマンス課題の効果的な活用方法と学びを深めるリフレクションシートの開発～

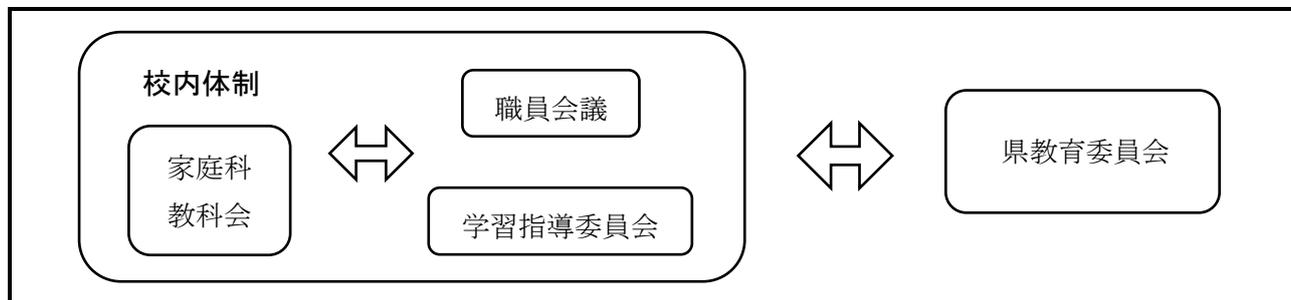
(2) 研究主題設定の理由

本校は，平成11年に普通科を改編し，1学年2クラス規模の総合学科で，全国でも珍しい美容服飾を始め，調製菓調理，健康福祉，情報教養の四つの系列を設置している。各系列は，生徒の興味・関心，進路希望等に合わせた多様な科目を設置したり，地域と連携した活動を多く取り入れたりするなど，特色ある教育課程を編成している。その結果，意欲的に学ぶ生徒が増加し，近年では地域からの期待も大きい。基礎学力の定着については，十分とはいえないという課題が残っている。校訓「強く明るく真心で」を掲げ，創立以来“自分を大事に，自信をもって，自分の明日をつくろう”を目標に，地域に根差した様々な教育活動を展開している。

今回の研究では，基礎学力やコミュニケーションに不安を抱える生徒が，より意欲的に取り組めるようなワークシートの工夫や，生徒の実態に応じた「パフォーマンス課題」の設定につ

いて実践研究し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげたいと考える。また、生徒が「できる喜び」や「学びのつながり・深まり」を実感できるようなリフレクションシートとループリックの開発にも取り組みたいと考える。このような理由により本主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

令和2年度	4月	年間計画の作成と授業実践、教材の検討
	8月21日(金)	学習評価, ICTを活用した実践研究についての研修会(オンライン)
	10月5日(月)	授業公開・協議会(オンライン)
	11月17日(火)	学習評価, ICTを活用した実践研究についての研修会(オンライン)
	1月15日(金)	授業公開(オンデマンド)
	1月21日(木)	教科調査官からの助言及び指導(オンライン)
	1月29日(金)	京都市教育委員会教員養成支援室 専門主事 岸田蘭子先生より 「資質・能力を育成するパフォーマンス評価について〜ループリックを用いた学習評価のあり方〜」講演会(オンライン)

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① ワークシート・リフレクションシートの開発
- ② 生徒が主体的に取り組めるパフォーマンス課題の研究
- ③ ループリックの考案と効果的に活用する方法

(2) 具体的な研究活動

- ① ワークシート・リフレクションシートの開発

生徒一人一人が意欲的に取り組み、「できる喜び」や「学びのつながり・深まり」を実感できるワークシート・リフレクションシートの開発を行った。毎時間一つのテーマを設定し、一つ一つがテーマ学習であると考え、そのテーマについて90分で完結するワークシート・リフレクションシートを活用した。ワークシートは多様な生徒の特性に配慮し、写真やイラストを多く使用した。例えば、漫画を活用した場合は、あわせてその内容を文字で説明したものも同時に掲載し、視覚的な効果で知識をわかりやすく示すこととした。

また、単に知識を記憶するのではなく、「あなたならこんな時どうするか」「どこに課題があるのだろう」「考え直すポイントはどこだろう」などの問いかけを行い、生徒が立ち止まって考える時間を設定したワークシートとした。

ワークシートの後半は、授業で取り組んだ内容についてのリフレクションシートとし、1

回の授業で学習した内容の小テスト、自己評価表、感想を記入させた。小テストでは、記号や語句で答える問題と記述で答える問題の2種類を出題した。これらの問題はワークシートで学習した内容から出題し、生徒は答え合わせをしながら、自分自身がどれくらい理解できたのか、どこが理解できていなかったのかを振り返ることができた。定期テストは実施しなかったため、生徒も教師もこの小テストで理解度を把握することができた。自己評価表では、この授業で学んだことがどの程度わかったか、どのように取り組むことができたのかを生徒自身が振り返り、わかったことやわからなかったところ、疑問に思ったことなどを記入させた。

② 生徒が主体的に取り組めるパフォーマンス課題の研究

パフォーマンス課題については、「契約の重要性」の単元で取り組んだ。パフォーマンス課題を設定するに当たっては、単元の「本質的な問い」を明確にし、「永続的理解」を明文化することが必要である。(『Q&Aでよくわかる！見方・考え方を育てるパフォーマンス評価』西岡加名恵・石井英真編著より)そこで、本単元の「本質的な問い」を「どうしたら安全で豊かな消費生活を送ることができるのか」とし、「永続的理解」を「契約の重要性について理解するとともに、複雑化、多様化する様々な消費者トラブルを知り、トラブル対処方法について正しい知識をみにつけ実践できるようになる」と設定した。

また、パフォーマンス課題を設定するに当たっては、目の前の生徒にとって、どんな力(資質・能力)の育成が必要かを常に念頭に置きながら、「妥当性」「真正性」「レリバンス」「レディネス」という「パフォーマンス課題」の条件を満たしているかどうかを検討した。さらに、

真正性 (authenticity)	リアルな課題になっているか？ 現実世界で試されるような力に対応しているか？
妥当性 (validity)	測りたい学力に対応しているか？
レリバンス (relevance)	学習者の身に迫り、やる気を起こさせるような切実な課題になっているか？
レディネス (readiness)	学習者が少し背伸びをすれば手が届く程度の課題になっているか？

『Q&Aでよくわかる！見方・考え方を育てるパフォーマンス評価』西岡加名恵・石井英真編著より
コロナ禍において少人数または個人で、生徒が興味・関心を持って取り組めるパフォーマンス課題を考えた結果、動画を活用した表現方法とすることとした。検討した結果、パフォーマンス課題を「契約について授業で学んだことを、今度はあなたが先生になって周りの人にわかりやすく伝えるための動画を60秒で作みましょう」と設定し、各班(5名程度)でICTの活用し、学校で設定したクラウド上のフォルダに各班が提出することとした。

各班が作成した動画の発表会を実施し、ルーブリックで各班の評価も実施した。

③ ルーブリックの考案と効果的に活用する方法

ワークシート、リフレクションシート、パフォーマンス課題を評価するルーブリックについての研究に取り組んだ。リフレクションシートの最後に自己評価表を載せ、生徒にそれぞれの課題にどのように取り組めたか、課題の内容をどの程度理解できたのかをA~Dで振り返らせ、その自己評価表を元にルーブリックを作成した。また、ワークシートの各課題の上に「どの観点について評価する課題であるか」をあらわす3観点の表を記載した。これらを重ねて観点別

評価も同時にできるルーブリックを作成した。観点別評価の点数を集計すると、単元ごとだけでなく長期的な視点での観点別評価もできるのではないかと考えた。パフォーマンス課題についても、ルーブリックを作成し評価を行った。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 毎時間一つのテーマを設定し、一つ一つのテーマ学習であると考え、そのテーマについて90分で完結するワークシート・リフレクションシートを活用した。「本時のめあて」で学習内容をわかりやすく生徒に示し、生徒は見通しを持って授業に取り組むことができた。
- イラストやカラー、漫画を用いて、生徒が興味・関心を持って取り組むことのできるワークシートを作成することができた。
- 授業で学習した内容の小テストと自己評価表を記入させるリフレクションシートを作成し、小テストでは、生徒も教師も理解度を把握することができ、自己評価表では、授業で学んだことがどの程度わかったか、どのように取り組むことができたのかを生徒自身が振り返ることができた。
- 「契約」の分野の効果的な指導方法の一つであるロールプレイングをICTを活用した活動（生徒の動画作成）に置き換えることで、生徒が得意分野を生かし、主体的に取り組むことができた。
- 生徒の表現方法の一つとして動画を活用する取組は、生徒が興味・関心のある分野であるため、意欲的に取り組むことができ「できる喜び」や「学びのつながり・深まり」を実感できた。
- ワークシート・リフレクションシートに評価の観点を記載したこと、自己評価表を元にルーブリックを作成したこと、これらを重ねて観点別評価も同時にできるルーブリックを作成したことで、指導と評価の一体化についての取組を行うことができた。
- 生徒が主体的に取り組めるパフォーマンス課題を作成することができた。
- 動画作成の取組については、教員のICTのスキルや動画編集アプリの選定、出来上がった動画のデータの容量の大きさなどの様々な課題が浮き彫りとなった。
- テーマごとに評価したため、かなり煩雑であった。評価計画と指導方法について研究を深め、適切な場面で評価することが必要である。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、評価計画のもと「調整力」「粘り強さ」を見とる必要がある。
- ルーブリックについては、あらかじめ作成していたものを生徒の状況に応じて、ていねい見直すことが必要である。

4 今後の取組

本事業を実施したことで、目の前の生徒にどんな力を育成し、それをどうやって評価するのか、いわゆる「指導と評価の一体化」の重要性を痛感した。次年度は、このことを踏まえ、パフォーマンス課題の深化やチェックテストを効果的に取り入れることなど「指導方法」の研究と適切な「評価計画」についての研究について深めていきたいと考える。

また、教科のみの研究にとどまらず、カリキュラムマネジメントの視点から、学校全体で取り組むことが効果的かつ重要と考えるため、校内の学習指導委員会等での検討を今後一層推進していく。